

OKIグループのCSRのかたち

特集

2

# 「OKIグループ環境ビジョン2020」 の達成に向けて

OKIグループは環境負荷低減の中期目標として2012年に「環境ビジョン2020」(P20参照)を策定し、4つの分野における取り組みを強化しています。ここでは「低炭素社会の実現」および「汚染の予防」の2つの分野について、商品における具体的な取り組みをご紹介します。

## 商品を通じた「低炭素社会の実現」

2015年12月に気候変動枠組み条約第21回締約国会議(COP21)が開催されるなど、地球温暖化への対応はますます重要度を増しています。OKIは主力商品であるプリンターおよびATM(現金自動預払機)において、環境負荷低減のための積極的な取り組みを行っています。

### ■プリンター・複合機における取り組み

OKIのプリンター・複合機は、ワールドワイドな商品の性質上、各地区の要望に合わせて開発を行ってきています。その経緯から新規部品数が増大し、開発期間、コスト、環境負荷の各側面で課題となっていました。そこで、LSI、電源、制御基板、機構部などハードウェアとファームウェアの両面から、プラットフォームの共通化を進め、複数機種での同時開発を行いました。これにより、開発期間が大幅に短縮されたほか、部材・保守部材の種類を減らすことで管理負荷も低減できます。これは、設計・製造・保守という製品ライフサイクルの各段階での省エネルギーおよび省資源という形で、環境負荷の低減効果にもつながります。

2015年1月に発表したA4モノクロLEDプリンターB400/500シリーズおよびA4モノクロLED複合機MB400/500シリーズは、このプラットフォーム共通化戦略の適用による商品です。基幹部品であるLSIと電源を刷新することで、休止モード(ディープスリープモード)における消費電力を従来比で1/3以下に削減するなど、2つの国際環境規格(「国際エネルギースタートプログラム」および「ブルー・エンジェル・マーク」)に適合しています。



A4モノクロLEDプリンター「B432dnw」



「国際エネルギースタートプログラム」  
オフィス機器の国際的省エネルギー制度。  
省エネ性能の優れた上位25%の製品が適合。



「ブルー・エンジェル・マーク」  
ドイツ連邦環境庁が1978年より運営する、  
「環境ラベル(Eco-Label)」の先駆的存在。

### ■ATMにおけるCO<sub>2</sub>削減の取り組み

ATMは金融機関のみならず、コンビニなどでも導入が進み、その利便性ととも、消費電力の削減にお客様の関心が高まっています。OKIが2014年11月に発表したATM「CP21Z」は、一定時間操作がない場合は周辺ユニットの電源を切る「省エネモード」を新たに導入し、待機時の消費電力を当社従来機比で60%削減しました。また、コンビニなどでATMのメンテナンスを行う警備員が車両で出勤する頻度を下げよう、ATM内部の紙幣カセットを大容量化し、間接的なCO<sub>2</sub>削減にも貢献しています。



ATM「CP21Z」

## 商品を通じた「汚染の予防」

製品に含まれる化学物質の規制は世界各国で強化が進み、製品本体はもとより、梱包材を含めたすべての材料について厳格な管理が求められています。広く海外でプリンター事業を展開するOKIデータは、高度化する化学物質管理に着実に対応し、欧州のRoHS指令、REACH規則をはじめとする厳しい環境基準をクリアするために、OKIが独自に開発したソフトウェアCOINsServ-COSMOS-R/R(以下、COSMOS-R/R)を活用しています。

製品上の化学物質管理には、部品の調査、集計・評価、報告といったプロセスがあり、その随所に課題があります。調査プロセスでは、膨大な部品調査の進捗管理や、多様なフォーマットへの対応。集計・評価プロセスでは、化学物質の含有率の計算、RoHS指令などで禁止された物質が入っていないかの判定。そして報告プロセスでは販売先に応じた多様なフォーマットへの対応などがあり、ITシステムへの要求は高度化しています。

COSMOS-R/Rは、これらの実務課題や頻繁な法令改訂に対応し、使いやすい実務ツールとして進化を続けています。

OKIグループはこれからも、「環境ビジョン2020」の達成に向けて、商品および事業活動における環境負荷低減のための積極的な活動を展開していきます。